

公益社団法人砥粒加工学会 関西地区部会報告

令和6年度 第3回研究・見学会を終えて

～兵庫県立工業技術センター(兵庫県神戸市)～

1. はじめに

令和6年度関西地区部会の第3回研究・見学会を「非破壊検査の最新活用術」と題して、令和6年9月27日(金)に、兵庫県立工業技術センター(兵庫県神戸市)で開催しました。30名の方々にご参加いただき、大変盛況な会となりました。

以下に、概要を報告します。

2. 見学会

研究・見学会に先立ち、関西大学の古城直道 副地区部会長から、開会挨拶をいただきました。続いて、兵庫県立工業技術センターの浜口和也様より、工業技術センターの概要や役割についてご紹介いただきました。年間約10,000件の技術相談に対して、課題を深掘りすることで真の問題点を発見し解決していくことを目標とされていました。

見学会では、マイクロ X 線 CT スキャナー、X 線残留応力測定装置、金属・砂型 3D プリンターの他に、「モノ」ではなく「ヒト」を対象としたデザイン評価開発システムや日本酒の製品開発など幅広い領域の評価設備、手法についてご紹介いただきました。また航空産業非破壊検査トレーニングセンターでは、非破壊検査のうち浸透探傷、磁粉探傷、超音波探傷について国際認証規格に準拠した国内初の訓練機関として、非破壊検査員の養成に取り組まれていました。

3. 講演会

講演会では、まず非破壊検査株式会社の江淵高弘様より「非破壊検査の概要と活用事例」と題し、非破壊検査の必要性と検査技術について、一般から最新技術まで幅広い範囲で活用事例を交えて解説いただき、改めて非破壊検査が「世の中の安全を守るための技術」であることを認識しました。続いて、東京大学の三村秀和様より、「Spring-8における高速 X 線撮像による金属加工プロセスの可視化」と題し、高エネルギー X 線を用いた加工現象の観察の試みについて動画を用いて分かりやすくご紹介いただきました。今後の産業展開やアカデミック連携により更なる発展が期待される興味深い内容でした。

4. おわりに

盛況のうちに研究・見学会を終了しました。その後、会場を移動して技術交流会を行いました。こちらも非常に多くの参加者に恵まれ、活発な議論が交わされました。最後に、貴重なご講演をいただきました講師の皆様にご心より深謝申し上げます。また、今回の研究・見学会の実施にあたりましては、兵庫県立工業技術センターの関係者の皆様にご多大なご支援ご協力をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。関西地区部会では、今後も会員各位に興味を持っていただけるような技術交流の機会を企画してまいります。是非、次回

以降もご参加いただければ幸いです。

(文責:江頭, 向)



図1 古城 副地区部会長



図2 浜口和也様



図3 江淵高弘様



図4 三村秀和様



図5 見学会の様子

